

医学分野における3Dプリンタ活用を推進中

3Dプリンタ活用による研究・教育力強化の実績を報告

【本件のポイント】

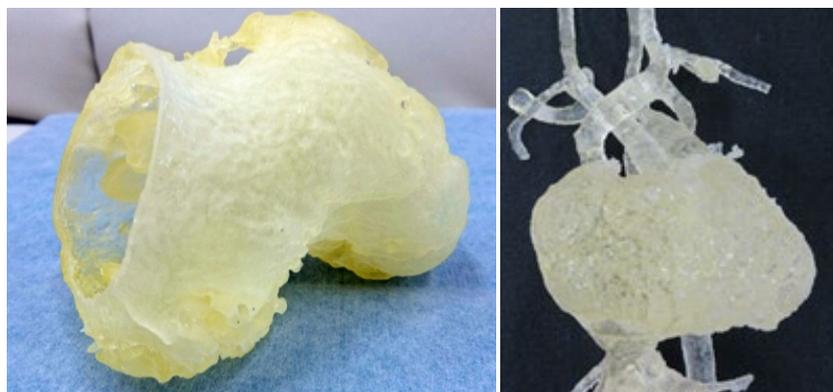
- 本学独自の「画像支援モデル事業」を展開
- 疾患や臓器の画像化、物品の試作などを積極的に実施
- 成果をまとめたアーカイブパンフレットを発行

学校法人 関西医科大学（大阪府枚方市 理事長・山下敏夫、学長・友田幸一）は近年、デジタル社会化が進行し、2次元（画像上）のデータを3次元（立体的）の造形物として作成できる3Dプリンタ等のイメージング技術が注目されている中で、この技術の医学応用を図るため独自に3Dプリンタ事業を展開する画像支援モデル開発委員会を2017年9月に発足。物品の試作など積極的に推進しています。

現在は、本学に所属する多くの研究者が疾患・臓器の画像化やモデル化等、様々な用途で活用しており（下図）、医学部や医科大学としては珍しい独自の3Dプリンタ活用事業を実現しています。こうした取組を受け、本学での3Dプリンタ活用例を発信するため、研究者の成果報告を取りまとめた成果報告書を発行しました。

本成果報告書において3Dプリンタの意義や活用方法、活用例の発信を行い、我が国における革新的な医学研究の発展や推進に寄与することを目指しています。

なお、現在は医学領域が中心となって3Dプリンタを活用していますが、今後は看護学領域（看護学部）やリハビリテーション学領域（2021年4月開設のリハビリテーション学部）での活用も予定しており、学内外でのさらなる利用促進に向けた取り組みを進める予定です。



3Dプリンタを用いて作成した心臓モデル（左）と左心低形成症候群の心臓モデル（右）

臨床の現場において手術前の患者さんの説明や手術のシミュレーション時への応用等、多彩に活用されています。

【本件取材についてのお問合せ】

学校法人 関西医科大学 広報戦略室（清水）〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

電話：072-804-2126 ファクス：072-804-2638 メール：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

